生活科　町へ出かけよう；町のマークを調べよう

授業者　　豊中市立螢池小学校　井上千佳子

＜授業の流れ＞

1次（1時間）：今までに見たマークを思い出し、学習のめあてを知る。

2次（3時間）：町に出かけて、いろいろなマークを見つけ、記録する。その際、何のマークかも予想させる。

3次（1時間）：グループで見つけたマークを紙に描き、何のマークか本で調べる。それを黒板に（弱粘着テープで）貼る。

4次（1時間）：全員で貼られたマークを分類する。（危険･禁止、注意、案内など）

井上千佳子先生へのインタビュー

聞き手：現豊中市立庄内小学校司書　内川育子

内川：「町のマークを調べよう」という 2 年生生活科での調べ学習は、司書の私にとっても印象深いものでした。それは、「体験する」→「予測する」→「調べる」ということを経て、さらに、調べたことを「分類する」ことで、自分たちでの「気づき」があり、「納得する」ことができたという流れがあったことです。この「予測する」「分類する」ということは、始めから意図されたことですか？

井上：はい、意図していました。調べっぱなしというのでは、学習としては、未完成だと思っています。自分（たち）の調べたことが、社会のしくみの一部に組み込まれている、機能している、そして、洞察したり、応用したりして、調べたことがこれからの自分の生きて働く力になることが必要です。次年度の「社会科」につながる「生活科」として、（うまく、形に表れないことはあっても）意図して活動させることが大切だと思います。

内川：2 年生でもこれだけのことができ、自分たちで気づくことができるということに驚きましたが、先

生にとっては予想通りでしたか？

井上．町で集めてきたマークが、本当にきれいに色分けができたので、予想以上に、子どもたちにはわかりやすかったようです。

内川：先生は、図書館の使い方がとても上手で、司書としては嬉しいのですが、普段どのように考えて図書館を利用されていますか？上手に活かすポイントはなんでしょう？

井上：まず、学校司書と仲良くなることです。そして「こんなことをやってみたい」という雑談をたくさんすることです。すると、こんな本があるとか、案外、この本は役に立たないとか、思わぬ情報も入りますし、やってみて残念な結果になっても、踏み込んで批評しあえます。

内川：ズバリ、図書館を利用する良さをアピールしていただけませんか？

井上：担任が子どもに教える場面では、“担任の提供するひとつの情報を全員が受けとる”、という学びですが、きちんと目的や調べ方を指導して図書館を利用させると、同時に違う情報を得ることができます。そして、その情報を交流させることで、子どもの得るものが何倍にもなります。（これは、インターネット上の情報を取るときにも同じことが言えます。）図書館の書架にある膨大な情報を、個に応じて上手に活用させたいと思います。